

## 緩和ケア病棟通信(2010年06月)

6月病棟通信が大変遅くなりました!!!すみません!!!

6月1日からスタートした緩和ケア病棟ですが、緩和ケア内科医の伊藤先生をはじめ、看護師たちや薬剤師、精神科医、栄養士、理学・作業・言語療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどなど、大勢の医療チームと協働しながら、より良いケアの提供に努めています。日々、自分たちの考えや行為が良かったのかと振り返りながら試行錯誤してここまで作り上げた当院の緩和ケア病棟を、今後、私たちにらしい独自の緩和ケア病棟を創ろうとしています。

なにより、私たちの指導者は、患者様とご家族の方々です。不慣れな私たちを暖かく見守ってくださっています。また、患者様とご家族の方たちの素敵な笑顔は、私たちに“これからもがんばろう!”という勇気を与えてくれます。

また、少しずつ増えてきているボランティアの方たちにも助けられています。園芸を中心に、庭の手入れや病棟内のお花の提供など、私たちができないところをお手伝いして頂き、大変助かっています。音楽療法士の方による、音楽により、患者様だけでなく私たちも癒されています。今までに2回開催しましたが、音楽を通して、患者様の表情が和らぎ、笑顔がでてきます。その笑顔を見た家族の方が、目頭を熱くし、それを見ている看護師たちも感動しています。音楽は、人のこころを癒すには最高だと改めて実感しています。今後、様々なジャンルのボランティアの方が参加していただけることを望んでいます。

実際のケアでは、日常生活の充実を図るため、特に衣・食・住の、食について重点を置き、栄養士の介入により、可能な限り対応をしています。また、衣については、身体の保清を中心に、まず入院し希望されれば早急に入浴をしていただきます。身体をさっぱりと整えて気持ち良く過ごして頂けるように配慮しています。痛みやその他の症状については、十分に緩和できない状況もありますが、さまざま職種の方たちと検討しながら対処しています。

まだまだ、殻を付けたひよこですが、緩和ケア病棟の扉を開いた瞬間、“空気が違う”“心地よい”“癒される”などと感じて頂ける雰囲気づくりに努めていきます。

(文責) 緩和ケア病棟師長 山本 知枝子

